



「発表会」(水彩)

ささきひとみ

登別市若草幼稚園(五歳)

北海道教育美術展奨励賞作品

評

かわいいすてきな衣裳を身につけてお友だちと楽しく演技した時の気持ちがよく表れています。

目次	ようこそ帯広へ……………2	実践発表……………6
	みんなでとりこになれたら……………3	オープン保育ピノキオ…原点……………7
	新指導要領に思う……………4・5	パステル・造形連盟のマーク……………8



北海道
造形教育
連盟報

No.83 1989.7.27 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務所 〒064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4の1
札幌市立三角山小学校 ☎643-1133

ようこそ帯広へ



第39回全道造形教育研究大会
帯広・十勝大会

大会運営委員長 寺本吉明

全道各地の先生方には、益々健勝で造形教育活動及び実践にお励みのことと存じます。

さて、7月27日(木)～28日(金)に、第39回全道造形教育研究大会を、すきとおる蒼、もゆる翠の広がる十勝平野の中央に位置する帯広市の大空小学校を会場にして開催いたします。

帯広市は、十勝の豊かな農業を基盤に発展し続けて特に近年は大型店の進出が目ざましい商業の街です。

また、田園都市を標榜して久しく、「帯広の森」は、ロマンに溢れる街をめざして整備され、去る1月にははまなす国体スケートのメイン会場として広く全国に紹介されたところでした。さらに近く道立美術館が誕生する緑が丘公園一帯は、文化の街、芸術の街帯広市としての顔となりつつあります。このような恵まれた環境の中にあつて、学校教育・社会教育の一層の充実のために情熱を傾注されつつある帯広市であります。

今回の全道造形教育研究大会の会場校となります大空小学校は、そのような田園都市を志向し、帯広の森に隣接した一大マンモス団地の中にある唯一の小学校であります。

当、帯広市での全道造形教育研究大会は、1972年に帯広市立柏小学校において第22回大会、「未来に生きる子どもの造形教育、＝生活に根ざした造形表現をどう高めるか＝」を研究主題にして開催して以来17年振りであります。このような大きな大会運営ははじめての経験といってもよい私たちがばかりではありますが、北海道造形教育連盟本部の役員の方々をはじめ、北海道教育委員会、帯広市教育委員会、十勝管内教育委員会連絡協議会や各関係団体の御指導と御援助を賜わりまして、本大会を開催する運びとなりましたことに対して、心より感謝し御礼を申し上げます。

多数の関係者の皆様の御支援により開催されます第

39回全道造形教育研究大会帯広・十勝大会は、「子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実」北海道造形教育連盟の研究主題を受けて、「君はいま創造のとりこに」をテーマに設定して、帯広・十勝の図工美術関係者が一丸となって短期間でありましたが研究を進めてまいりました。大方の御批判を戴ければ幸いと存じます。

今次教育課程の改善により、「個性を伸ばし豊かな心を育てる」ことを重視しながら、

(1)豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること。

(2)自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること。

(3)国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること。

(4)国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること。

などが基準の改善のねらいとなっています。これを受けて図工・美術科の教育目標が新指導要領に明示されてきておりますが、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎的能力を育てるとともに表現の喜びを味わわせ、豊かな情操を養うことに重点をおくとされております。さらに本教科の指導の中で表現製作の喜びをいっそう深く味わわせ、個性を伸ばし豊かな心を育てるものであると理解されます。

第39回大会においては、21世紀に生きる子どもたちの美的情操・道徳的心情の陶冶をはかり、個性を生かし、個性を伸ばしたいと願っております。

造形活動の様々なもの(材料)を通して一人一人の自己表現、主体的な活動を行い豊かな「心と」自己を表現する「技」を教え育てるために、主体的に・能動的に学習計画に参加する子どもたち、ひたむきに、夢中になって学習に取り組む子どもたちの姿を志向し、今大会のねがいとして、授業(子どもの姿)・様々な実践例・実技研修の紹介と交流を通して、帯広・十勝の造形教育発展のための糧となってくれれば幸わいに思っています。

本大会参加の皆様方と共に研究交流して、造形教育の今日的課題等も解決されて、北海道造形教育の一層の高まりを期待申し上げ歓迎のご挨拶とします。

みんなで

とりにこになられたら……



帯広市立啓北小学校 本間 義視

いま、遠い過去になった第22回帯広大会を思い出しています。

当時、30代の若い仲間が中心となって、口角泡を飛ばして、芸術や美術教育などについての持論を交えあったものでした。喫茶店や居酒屋で、職員室や宿直室で、ある時は仲間のアトリエで……朝、そこから出勤をした人もいと聞いています。誰もが若々しくエネルギーが溢れていました。「未来に生きる子どもの造形教育」という全道の研究主題に向かって、みんなが燃えていました。

ところで、第39回大会の世話役の顔ぶれをみてみると、確かに少しは新しい血が注がれてはいるものの、あの22回大会当時の若い仲間が中心になっていることに気づきます。あの時の研究主題にあった「未来に生きる子どもたち」とは、ひょつとすると、当時は若かった私たちのことだったのかなと、考えたりもしています。

私たちは、あの頃より平均年齢がかなり上がりました。肉体的には、残念ながら峠を越しているのも確かです。でも、図工・美術の教育にかける情熱はいささかも衰えてはいません。心の豊かさが求められ、創造的にたくましく生きる子どもの育成が叫ばれている現在、この教科が、益々重要性を増してきているの思いを強めているからです。

第39回帯広・十勝大会の大会主題を、「君はいま創造のとりにこに」と決めました。「とりにこ」になるのは、子どもたちよりも、まず、私たちでなければならぬと考えています。できましたら、参加される先生方とも一緒に「とりにこ」になりたいものだと、願っているところです。

そんな気持ちで、心よりお待ちしております。

第39回は「サンキュー」大会

皆様のおいでを心から喜んでいます。

子どもたちの美しい音や色をお楽しみに。地域ぐるみで、心をこめてお迎えいたします。

まもなく二十周年をむかえる会場校
大空小学校

子どもたちを創造のとりにこさせる
公開授業

11の授業があります。みんな、はりきって頑張ります。

ふるさと素材・十勝石工芸から、最新のコンピュータグラフィックまで。

名人技やウラ技が習得できる
実技研修

帯広・十勝の子どもたちの
作品展

作品を通して、子どもたちや指導者の姿をご覧いただければ……

人の交流・実践の交流によって、新しい出会いや発見が楽しみに。

楽しく、実りある話し合いを……
分科会

池田のワインと牛肉で
歓迎レセプション

野外で豪快な料理に舌鼓を打ちながら……。とにかく自信があります。

すきとおる蒼、もゆる翠

夏の帯広・十勝は魅力がいっぱい。名勝は、地元の仲間の「スケッチ」によって、研究紀要の中で紹介させていただきました。

夏の観光もお楽しみいただきたいと存じます。



新教育要領に期待する

札幌市すみかわ南幼稚園長

鹿島 健

幼稚園教育要領が25年ぶりに改訂され、試行期間なしで平成2年度から施行される。各種学校に先きがけて実施されることは、それだけ幼稚園教育の重要性が名実共に認められたからであろう。

幼稚園教育は人間形成の基礎を培う場である。そのために子どもの遊びを中心にすえ、さまざまな活動や経験をさせるわけであるが、今の世の中はそうした体験や活動を得ずらい状況にある。

いま、幼児をとりまく社会環境は著しく変貌をとげている。特に都市化の波は豊かな緑を失ない、幼児の自然とのふれあいの場を奪っている。また、核家族化の現象は人間関係の稀薄化を生み、人間として最も重要な人との暖かいかわりを粗害している。

こんな事象に目を向け改善の柱にすえたことは、誠意的を得た改善といえるであろう。

また、今回の改訂の中で「教師の援助」という項で教師の果たすべき役割が明確に位置づけられた。どの学校においても教師は子どもの教育を左右する鍵を握っているが、特に幼児教育に於ては教師の影響は大きい。即ち、教師の一举一動が全てモデルとなり、幼児の心に強く焼きつく。こうした意味から教師の指導性を明らかにした点は高く評価できる。

小学校の関連という点で観ると、今回小学校に生活科が新しく設置された。小学校の生活科は教科であり、教科としての「ねらい」もきちんとしていて、幼稚園の生活とは、同一視はできないが、いずれにしても幼稚園の方に向いてきたことだけは確かの様である。

我が国の学校教育では入試に象徴されるように、常に下のものは上を向いているが、上の学校はあまり下の学校のことは気にかけていない。こうした点から明後年実施される小学校指導要領にも大きな期待を寄せているものである。



造形教育を学校全体の教育の中で

千歳市立日の出小学校

関 建 治

新指導要領では、自ら学ぶ意欲や、自ら進んで活動する子どもを育てることが強調されている。この主旨を生かしながら、学校教育全体の中で造形教育をどうすすめていくかは、私たちにとって大きな課題である。

これまで、ともすれば、子ども自らが発見し、自らが創造していく活動が不足しがちであった点を反省し造形教育の中でも、教育計画を見直し、再構成をはかっていくことが必要である。

子どもたちが、自ら地域の環境の中から学習の素材を見つけだし、生命の輝きを発見したり、生きる姿のありように気づいていくような教育活動の計画が組まれていくことが大切であると思う。今問われているのは題材内容そのものと、その与え方ではないかと思う。

一方、これまで、私たちは、子どものつまづきをとりのぞくために、たくさんの「手だて」を考えだしてきたが、子どものつまづきを許容できる単元構成や、授業の流れを考えてみる必要がある。あまりにも性急に、子どものすぐれた作品を期待しすぎ、子どもの心を育てることや、子どもの全的な発達を促すことを見落しがちではなかったかを謙虚に反省してみなければならぬだろう。子どものつまづきを認め、許容し、つまづきを自らのりこえることを授ける手だてこそ授業の中に組み入れていかなければならないと思う。

このような、自ら発見し自ら創造していく子どもを育てる仕事をすすめるためには、多くの教師の知恵を集め、子どもを育てる共通の言語を探し求めながら、手を携えていかなければならない。私たち美術教育に携われるものは、今、情熱をこめてこの素晴らしい教育の営みにとりかかりたいと思う。

頷に思う



子どもが主体的に 働きかける造形学習へ

札幌市立篠路西小学校

佐藤 靖

「ゆとりと充実」を押し進めることをベースにし、改善のための基本的方針である5項目にそって、新しい目標や内容がいよいよ提示されました。

細かな部分については省略をしますが、「教師が子どもを活動させる」学習から「子どもが主体的に働きかける造形学習へ」を、一層重視しているように思われます。

勿論、過去からも力説されてきておりましたが、子どもらしい感性や個性を造形上の多様な約束ごとで締めつけたり、創造する楽しみや喜びを制約するような学習の展開をさらに戒めたようでもあります。

以前に実践したポスターの授業で、ある高学年の女の子が、『あなたも読書をしてみませんか』というテーマのもとに、画洋紙から行程もはみ出した本を画面上部に大胆に配置し、その感じを表すために本の中に文字を実に細かくていねいに書いておりました。

そのうちに「あっ」と大きな声を発するので、聞いてみますと、本の上部が省略されているのにもかかわらず中の文字を順序よく最初から書いてしまったとの事でした。

当然文字も途中から入れなければならないことを理解したのでしょう。

ここで私は、表現意欲の強さと真剣に追求する態度が『気づき』を誘発し、新たな表現方法を生み出していくものだということを学びました。

このことは、手や全身を使つての素材へのゆったりした直接体験をバネにし、一人ひとりの思いを大切にしたい総合的な造形能力の育成がかいま見られる今回の内容からも理解することが出来ます。

さらに、過去の造形教育の変遷を踏まえながら、未来の展望につなげていかなければならない私たちの使命と情熱が、今こそ子どもたちに問われている時なのかも知れません。

「手を十分に働かせてつくる活動の重視」は、造形の主人公を子どもにおき、その営みを後ろから援助していく私たちの姿を表現していると言っても過言ではないでしょう。

新教育課程に ついて思う

札幌市立札幌北中学校

小幡 哲也

新教育課程において重視されている視点が4つある。

・自己教育力の育成・基礎基本の徹底・個性・創造性の伸長・文化・伝統の尊重などである。これらの視点をこれからの教育に生かして行くことを考えたとき、私たちの教科のめざすものと大きく重なっているように思う。また中学校美術の目標の改善の視点として、

ア. 創造性を高めるため、美的体験を豊かにし、造形的な創造活動を重視する。

イ. 創造活動や鑑賞の体験を通して、豊かな情操を高める。

ウ. 生徒の発達に応じて個性を伸ばす指導の充実を図るため、目標を第1学年と第2・3学年とで示す。

となっている。今ここで考えてみたいことはこのウについてである。第2学年での美術と音楽の授業時数を1～2という弾力的な運用を行い、それに伴って選択の教科及び時数が多くなったわけである。1年で基礎的基本的なことを学び、2年になるにあたって生徒が自分に合った適確な選択をする。また私たち教師は、生徒のそれぞれの伸ばすべき個性を見抜き、その生徒に合ったものを選択させる。本当にこのようなことができるだろうか。また現在の学校の実態では生徒の個性を十分に伸ばしてやれるような選択の授業を用意してやれるとも思えない。もし実施するとしても学校選択という形が多くなることが予想される。このことは文部省側も心配し次のように言っている。

「その運用にあたって個性を生かすという観点から導入されたものであるから、学校選択のみにとどまるのではなく、各学校工夫して出来るだけ個々の生徒による生徒選択の趣旨が生かされるよう運用されることを期待している。

このような実態で選択授業を実施するために美術の授業が下限の1になるとしたらどうだろう。週1時間の授業の中で十分に創造性を高め、美的体験を豊かにし、豊かな情操を高めることができるとは思えない。

生徒の発達に応じて個性を伸ばす指導をするためには適切な個別指導が必要だ。そのためにも私たちはぜひ2時間必要としている。

みんなで

とりにこになられたら……



帯広市立啓北小学校 本間 義 視

いま、遠い過去になった第22回帯広大会を思い出しています。

当時、30代の若い仲間が中心となって、口角泡を飛ばして、芸術や美術教育などについての持論を交えたものでした。喫茶店や居酒屋で、職員室や宿直室で、ある時は仲間のアトリエで……朝、そこから出勤をした人もいと聞いています。誰もが若々しくエネルギーでした。「未来に生きる子どもの造形教育」という全道の研究主題に向かって、みんなが燃えていました。

ところで、第39回大会の世話役の顔ぶれをみると、確かに少しは新しい血が注がれてはいるものの、あの22回大会当時の若い仲間が中心になっていることに気づきます。あの時の研究主題にあった「未来に生きる子どもたち」とは、ひよつとすると、当時は若かった私たちのことだったのかなと、考えたりもしています。

私たちは、あの頃より平均年齢がかなり上がりました。肉体的には、残念ながら峠を越しているのも確かです。でも、図工・美術の教育にける情熱はいささかも衰えてはいません。心の豊かさが求められ、創造的にたくましく生きる子どもの育成が叫ばれている現在、この教科が、益々重要性を増してきているとの思いを強めているからです。

第39回帯広・十勝大会の大会主題を、「君はいま創造のとりにこ」と決めました。「とりにこ」になるのは、子どもたちよりも、まず、私たちでなければならないと考えています。できましたら、参加される先生方も一緒に「とりにこ」になりたいものだと、願っているところです。

そんな気持ちで、心よりお待ちしております。

第39回は「サンキュー」大会

皆様のおいでを心から喜んでいきます。

子どもたちの美しい音や色をお楽しみに。地域ぐるみで、心をこめてお迎えいたします。

まもなく二十周年をむかえる会場校
大空小学校

子どもたちを創造のとりにこさせる
公開授業

11の授業があります。みんな、はりきって頑張ります。

ふるさと素材・十勝石工芸から、最新のコンピュータグラフィックまで。

名人技やウラ技が習得できる
実技研修

帯広・十勝の子どもたちの
作品展

作品を通して、子どもたちや指導者の姿をご覧いただければ……

人の交流・実践の交流によって、新しい出会いや発見が楽しみに。

楽しく、実りある話し合いを……
分科会

池田のワインと牛肉で
歓迎レセプション

野外で豪快な料理に舌鼓を打ちながら……。とにかく自信があります。

すきとおる蒼、もゆる翠

夏の帯広・十勝は魅力がいっぱい。名勝は、地元の仲間の「スケッチ」によって、研究紀要の中で紹介させていただきました。

夏の観光もお楽しみいただきたいと存じます。

オープン保育ピノキオの造形

室蘭ピノキオ幼稚園 園長 坂本 行正

ピノキオでは、造形をひとつの領域の活動としては考えません。

こどもの生活すべては《創造の営み》と、とらえているからです。

好奇心旺盛な視点で幼稚園のこどもの生活を見わたせば、あらゆるところに《表現の素材》は、満ちあふれています。

保育形態も固定した考えにとらわれず、こどもの澄んだ感性を一層、ふくらませるよう柔軟に考えています。ひとつの課題をもった設定保育の「よこわり・クラスの活動」だけでなく、さまざまな《遊び》を通してこども一人ひとりの自発性、主体性、意欲を育てるオープン保育の「たてわり・チームの活動」を組み合わせ、《創造性あふれるこども自身の生活づくり》を保育の要に進めています。

自然の息づかいや小さな変化にも心を動かせるよう保育のモチーフも四季の《自然》をふんだんに取り入れています。

こうした考えから、各年齢クラスのネーミングも風・水・土・木・光組。こどもの生活の核となる造形活動も、これらの自然の素材と語り合うことから始めてい

ます。

この《環境づくり》こそ、教師のこどもに対する最も重要な働きかけであると考えています。

育てるのは、こどものイマジネーション。モチーフと語り合う中から生まれるこども自身のインスピレーションです。

造形活動は、つくったりこわしたりしながらモチーフと語り新しい想いを心に描く『ひらめきとおもいの軌跡』そのものと私達は考えております。

《生活の中から生まれる表現》《こどもの必要感や実感から生まれる表現》こそ、こども自身のものです。みため世界に《自分》が直接かわりだすところにその子の《創造の世界》が生まれます。

指導は、うっかりすると押しつけやおせっかいになることを反省し、親切あまってこどもをがんじがらめにしない様、《自由な雰囲気と環境》の中でこどもをふくらませて行きたいと思っています。

描画における最大のポイントも、技術のことよりも一番大事にしたいことが「こころ」にひそんでいる気がしてなりません。

こども・大地・太陽！

造形のモチーフは、土・水・光・影・風・木・生き物
野の草花・海・山・みんな大自然の素晴らしい贈物。

生活環境・ピノキオ山の基地、ピノキオ農園

いきものももだち（動物との生活）



木のこすりだし、フロタージュ
ユもあそびの中で



園庭に手づくりのキャンバス、
光あふれる大地で描く。



どろんこねんどのケーキに土の塊を貝で削ってパウダー

原点

熱いうちに鉄を打つ 小林 暁

● 母猫が子猫に獲物のとり方を教えるとき、適当に弱らせたねずみを与えて仕込む。こうして育った子猫は、生涯ねずみを好んで襲うようになる。

ねずみの代りにヘビを同様に用いると、その子猫は生涯、なによりもヘビを最優先して襲うという。これはネコと呼ばず、ヘコ（蛇猫）というとか。

● 生まれた子猫を3ヶ月間、片目を閉じたままにしておくと、その後、目を開いても永久にその目には視力がでてこないと実証されているらしい。

この3ヶ月間はクリティカル・ピリオットと呼ば

れる期間で、動物の種類によってその日数が異なる。

知覚の種類によってもピリオットに長短があり、高度な知覚ほど長いのは言うまでもない。

● 人間の基本的な知覚は生後1年間に非常に柔軟であり、その後5～10年ぐらい続くといわれている。

人間らしく育つに必要な刺激は、適時適正に与えるのが教育の原点。当世、ねずみを恐れ、キャットフードしか食べない子猫や、片目しか見えない人の子を多く見るようになった。どうしてだろう。

■ ところで、とうの間にピリオットを過ぎた、私のように冷えた鉄（退職者）に原稿用紙を届け、打ってくるとは、コクな話とお思いになりません。

描写表現テクニックビデオシリーズ

パステル

夢の世界を表現するパステル!

気品ある色調!

使いやすさとソフトな仕上り!



パステルは材料の準備も、設備を揃って練習されていきます。

パステルII 入門編

●このビデオは準備からパステルを始める方、パステルによる絵の技法を詳しく解説し、12の練習の作り方を、また、基本中の基本の塗り方もお伝えしていきます。さらに、この入門編では、画一画、画二画、画三画以上の技法も解説し、練習用紙も用意すること、パステル画の準備、片も準備しておくように願っています。

パステルIII 応用編

●このビデオでパステル画をマスターされる方、パステルによる絵の技法の基礎知識を十分に取得された方のため、今回は基礎知識を習った方にもお伝えします。画二画、画三画、画四画までの技法もお伝えし、さらに、基礎知識の復習も解説しています。本編は技法だけでなく、練習紙、パステル画の準備も用意した本編をマスターすれば、パステル画を習得できます。準備は充分にしてください。

指導講師 南 豊 台 恵

女子美術大学 絵画専攻
南豊台キャンパス 南豊台 恵

コンテパステルI 幼児教育編

- コンテパステルを準備して、保存や発色の状態を把握して、その絵画に必要な技法指導をおこなうのが、このビデオです。
- 幼児の絵画に「コンテ」(パステルを塗るための線画)が、画一画、画二画、画三画、画四画と進むにつれて、徐々に塗りやすくなり、絵画の準備が完了します。
- コンテパステルの絵画を完成させるには、絵の具、パステル、紙、画一画、画二画、画三画、画四画の準備が必要です。
- それによって、コンテパステルの技法の全貌が分かる。準備や発色の状態がよりわかりやすくお伝えし、指導として活用できます。



描写表現テクニックとビデオシリーズ

番号	対象	対象者	所要時間	価格	数量
④	コンテパステルI 幼児教育編	幼児を教える人のために	60分	¥9,800	1コ
⑤	パステル II 入門編	パステルを始める人へ	60分	¥9,800	1コ
⑥	パステル III 応用編	パステルの可能性を追求する	60分	¥9,800	1コ

ご注文はビデオ専用名(VHS・VCD)を明記して下さい



株式会社 サクラクワバス 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目
〒064 TEL (563) 5161(代)

造形連盟のマーク デザイン 伊藤 恵先生

意味は、中の図と、外の□(四つ星形)⇒「工」とかでできています。はじめ「北海道図画工作教育連盟」の略称「図工連盟」の図工をそのままデザインしたものです。



あとがき

この83号がお手もとに配られているところは、帯広大会が盛会のうちに、進められていることでしょう。雄大な十勝の「すきとおる蒼、もゆる翠を」を満喫して帰りましょう。

永井恭子(平岡小) 島 昇二(札幌中)
塚野昭臣(附属中) 伊藤善彬(曙 小)